

【様式】

平成29年度 学校マネジメントシート

学校名 (名張高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「自律」「協調」「創造」を校訓とし、総合学科の特色である人間性と専門性を育成し、地域に信頼され、社会で活躍できる人材を輩出する学校。
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 4つの力 ・「気」 挨拶がしっかりできる。端正な服装ができる。時間をきっちり守れる。 ・「心」 自分の力で取捨選択し、他者と協調協力して物事をすすめる。 ・「体」 部活動や地域との活動に励み心身を鍛える。 ・「技」 特技を伸ばす。資格を取得する。進路を実現する。
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒とともに ・信頼 生徒との信頼関係が構築できる。 ・授業 授業を中心に生徒の人間性と専門性を高めることができる。 ・相談 学習の躓きや日頃の悩みに耳を傾け、粘り強い支援と指導ができる。 ○ 保護者・地域社会とともに ・信頼 保護者との信頼関係が構築できる。 ・連絡 日々の様子や変化を的確に連絡できる。 ・情報 希望する進路が実現できるよう早め早めの情報提供ができる。 ○ 教職員とともに ・授業改善、業務の効率化、円滑な引き継ぎ、研修参加、研究発表等、より良くすることで「働きやすい職場」と「働きがいある職場」をつくる。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待	<p><生徒>前年度末の生徒アンケートの結果、生徒の約 30%が就職を希望し、約 30%が専門学校、約 40%が四大・短大への進学を望んでいる。授業、学校行事、部活動を中心に教育活動のすべてに対する期待度が高い。</p> <p><保護者>保護者アンケートから学校目標や教育目標への理解度は高い。多様な進路に対応し進路実現を可能にしてくれる学校になってほしい。家庭学習の充実を求める声がある。</p> <p><地域>地域を支え、地域をリードする力を持った人材の輩出</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
	<p><家庭>生徒全員が安心・安全に学べる環境と校風。</p> <p><地域>信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化。</p> <p><就職先>卒業生や勤務先の先輩からの期待を裏切らない人材の輩出。</p> <p><進学先>学ぶ力と志を備えた人材の輩出。</p>	<p><家庭>基本的な生活習慣の確立。本校教育方針へのさらなる理解と協力。</p> <p><地域>学校と地域が共働した取り組みへの推進。</p> <p><就職先>インターシップ、進路講話への協力。</p> <p><進学先>高大連携授業、進路講話への協力。</p>

(3) 前年度の学校関係者評価等		<p>○ 総合学科としての特色ある教育課程とそれを活かすためのキャリア・ガイダンス 多様化する生徒の興味・関心・進路に対応した教育課程が構築されている。加えて、その優れた教育課程を十分に活用できるよう、担任団・学校運営部によるきめ細やかなキャリア・ガイダンスが提供されている。極めて高く評価できる。現状の取り組みをより前進させてもらいたい。</p> <p>現在、伊賀地区は高等学校再編のさなかにある。このような時勢にあつて、生徒・地域・社会から求められるニーズは何なのかを、常にアンテナを高く張りめぐらし、不断的にその認識に努め、教育課程の改善と検討を行う必要がある。</p> <p>○ 確かな学力の向上に向けて、学ぶことの意義を認識させる教育 「基礎学力テスト」による学力診断、「N1グランプリ」による学習意欲の向上、「プラス日記」等の取り組みによる学びの綴り方など、基礎学力充実のための取り組みが精力的に行われている。こうした取り組みは充実しており、極めて高く評価できる。</p> <p>しかし、その一方で、家庭学習をほとんど行っていない生徒の多く、学びへの意欲を欠いているという現実がある。これは、自分は何のために学ぶのか、学びは人生をどのように豊かにするのかといった「学ぶことの意義」を学ぶことの不足に起因しているものと考えられる。ここに御校の大きな課題があると指摘できる。</p> <p>○ 豊かな心と健康な体の育成のための多彩な教育活動 多彩な学校行事や総合的な学習の時間の運営、人権学習等が充実しており、これに対する生徒の満足度も高い。しかし、こうした取り組みにより、生徒の未来がどのように拓かれるのかを生徒自身によく認識させる必要がある。</p> <p>○ 信頼される学校づくりと広報活動 名張高校の優れた教育活動を、地域・社会にアピールすべく、広報活動の充実が図られた。特に、「名張高校新聞」は、学校内のホットな情報を明るく楽しく広報したものであった。家庭や地域、関係機関との連携のために、今後も継続した情報発信の充実が望まれる。</p>
		<p>総合学科に学科改編して 16 年が経過した。伊賀地区の中学生が減少し、高等学校再編化の動きが活発化する中で、生徒の進路希望が多様化するとともに、将来の夢や目標が希薄化している。一方、総合学科に魅力を感じ入学する生徒、進学か就職かに迷う生徒、経済的理由により就職しなければならない生徒等、多様な課題を抱えた生徒一人ひとりに寄り添った指導と支援が必要である。</p>
		<p>教員の約半数が経験 10 年未満である。教材研究、クラス運営、部活動の指導、各種委員会等、過密なスケジュールをこなしている。そのため 19 時以降でも多くの教職員が職員室にいるという状況が常態化しており、総勤務時間の縮減が喫緊の課題である。</p> <p>一方、職員同士の仲間意識が芽生え、意見を自由に述べ合える雰囲気が高まりつつある。この機を逃すことなく「働きやすさ」と「働きがい」のある名張高校へと進化したい。</p>
(4) 現状と課題	<p>教育活動</p>	
	<p>学校運営等</p>	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○ 授業 生徒の確かな学力の向上を図るため、すべての教員は積極的に授業改善を進め「わかる授業」と「将来につながる授業」を行う。</p> <p>○ 指導 豊かな心を育成するため、教職員は人権教育を柱に安心して学べる学習環境を整える。規範意識をさらに高め、生徒の自己肯定感・自己有用感の醸成を目指し、粘り強い指導と支援を行う。</p>
	<p>○ 働きやすさ 無駄な仕事はやめる。①名張高校にとって良いことは現在実行していることは「継続する」。②名張高校にとって良いことなのにできていないことは「すぐ始める」。③すぐにやめた方がいいことは「すぐやめる」。業務の効率化と円滑な引き継ぎによって「働きやすい」名張高校を目指す。</p> <p>○ 働きがい 会議時間を縮減する。①早め早めの連絡調整を徹底することで会議時間を短縮する。②各種委員会での議論を深め、委員会から改善案を提案し、改善策を実行に移す。③空き時間は教材研究に集中できる組織風土を育てる。各部各学年が約束し責任に果たすことで「働きがい」のある名張高校を目指す。</p> <p>○ 総勤務時間の縮減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 時間外労働時間の縮減の設定 月あたり 4 時間（週あたり 1 時間） ・ 休暇取得日数の増加日数分の設定 年あたり 5 日分 ・ 定時退校日の設定 月あたり 1 日 ・ 部活動休養日の設定 週あたり 1 日 ・ 会議時間の縮減の具体的取組の設定 「仕事の棚卸し」をテーマにしたオフサイトミーティングの実施 「会議スマートルール」に沿った会議運営
学校運営等	

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

教育活動に関する項目は、児童生徒を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「教育課程・学習指導」「キャリア教育(進路指導)」「生徒指導」「保健管理」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
確かな学力の向上	(1)学習習慣の確立と基礎学力の定着		
	① 1学年 「SHR学習の実施(書写・国語(マナトレ)・読み物・プラス日記・教員講話)により、学習習慣を確立し、基礎学力の定着を図る。」 【活動指標】90%以上の実施 【成果指標】SHR学習開始以降の実施率	①1学年 SHR学習の実施率 91.1%実施(2/21 現在) (123/135回実施)	◎
	② 2学年 「次年度の進路実現に向けて、自己の現状を知り、早期に対策を立てる学習を意欲的に取り組むために模試・各種検定の受験を推奨し、「学ぶ姿勢」を確立する。」 【活動指標】進路指導部・各教科と協働し、1人1回以上の模試・各種検定受験 【成果指標】模試・各種検定受験者数	模試・検定受験者数 230名中178名受験 (受験率77.4%)	◎
	③ 3学年 「進路指導を充実し、進路指導に対する生徒満足度の向上を図る」 【活動指標】進路指導に対する満足度、“満足した”が80%以上 【成果指標】満足度調査を実施し、『名張高校の進路指導に満足しましたか』に”とても満足した””満足した”と回答した合計数。	③3年次より 4項目に分けて調査した。 「進路情報を適切に提供」 91.1%、「効果的な指導」 89.1%、「補習や講演会は役に立った」83.9%、「産社・総合は役に立った」78.8%。	※
	(2)授業改善(教育運営部) 「思考力・判断力・表現力が育つよう授業改善を行い、生徒が能動的に学ぶ授業を実践する。」 【活動指標】各教科の実施状況、達成状況	4項目の総計は85.7%。 各教科ともほぼ達成できた。	◎
	(3)進路実現(進路指導部)		
	① 希望進路の実現 「進学では、学習合宿の実施や進学補習を充実し、第1志望の進路先への合格100%を目指す。就職では、就職対策講座の実施や面接指導の充実を図り、第1次合格90%、3月末合格100%を目指す。」 【成果指標】第1志望の合格率・生徒アンケートの満足度	① ・学習合宿を実施 参加者1年8人、2年4人 ・進学補習を実施 ・進学希望者の第1希望合格率89%、就職希望者の1次合格率95%(1月末時点での内定率100%)	※
	② 基礎学力の定着 「1・2年次生対象の基礎学力テストを3回実施し、基礎学力と進路実現との相関関係を分析することで、教員の共通理解の基盤として低学年からの進路指導に活かす。」 【成果指標】基礎学力テスト偏差値および到達度	・生徒アンケート満足度 85.7% ②基礎学力テストの実施 平均偏差値1年51.8 2年53.5	※

<p>豊かな心の育成</p>	<p>(1)「基本的生活習慣の定着と確立」</p> <p>① 1学年 「社会人として必要な素養を身につけさせるために、進路を意識した働きかけを行うことで、欠席・遅刻の習慣化を防止する。」 【活動指標】SHR・LHR 指導、定期的な学年通信の発行、共通理解及び未然防止のための学年集会 【成果指標】年度末の皆出席者80名以上(生徒の約 40%) 遅刻総数年間201回以内(遅刻指数:1.0)</p> <p>② 2学年 「社会人として必要な素養を身につけさせるために、進路を意識した働きかけを行うことで、欠席・遅刻の習慣化を防止する。」 【活動指標】定期的な学年通信等での提示、SHR・LHR での指導、定期的な学年集会での指導 【成果指標】2年次末の皆出席者80名以上(昨年度皆出席者:80名) 遅刻総数年間254回以内(昨年度:年間255回)</p> <p>(2)生徒の変容把握 (人権教育推進部) 「人権学習 LHR 後に実施する人権個別面談をとおして、部落問題をはじめとした人権諸課題についての生徒一人ひとりの認識や生活課題を把握するとともに、学習に向かう姿勢や学習の中での発言・綴りをとおして、生徒が変容していく姿を把握する。」 【活動指標】面談年3回実施。(ただし3学年は2回)</p> <p>(3)疾病の早期発見と命の大切 (保健部)</p> <p>①「全生徒の健康状態を把握するとともに、疾病の早期発見に努める。特に、歯科保健について自ら管理ができるようにする。」 ②「生徒が自他ともに命の大切さについて深く考え、自分も他人も大切にすることができるようにする。」 【活動指標】 歯科検診の 100%実施を目指す 各学年とも保健講演会を行い、事後アンケートを行う 【成果指標】・健康診断実施統計で評価する アンケートで理解が深まったと答える生徒90%以上</p> <p>(4) 時間厳守 (生徒支援部) 「年間登校遅刻者数の減少」 【成果指標】年間遅刻者数のべ800人以下、(月別遅刻者数) (今年度より授業遅刻のカウントおよび指導を導入) (昨年度より連絡あり・なし問わず遅刻扱い指導を導入)</p>	<p>①1学年 皆出席者 79 名(2/21 現在) 遅刻総数 186 回(2/21 現在)</p> <p>②2 学年 皆出席者 74 名(2/19 現在) 遅刻総数 252 回(1/31 時点)</p> <p>担任・副担任間の連携が 100%でなかった点。</p> <p>①長期欠席・入院生徒を除くと2名のみ未受診 ②理解が深まり、知識がついたと答えている</p> <p>(4) (生徒指導より) ※登校遅刻557人 授業遅刻641人 ※昨年度 957人(目標1000人) (連絡あり・なしの両方) ※一昨年度 1526人 (連絡あり541・なし985)</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>※</p> <p>※</p>
----------------	--	--	--

改善課題

■ 確かな学力

(1 学年)

SHR学習を毎日実施することにより、学習習慣は定着しつつある。しかし、意欲的に取り組んでいる生徒がいる一方で、作業になってしまっ基礎学力の定着まで至っていない生徒もいる。クラスの生徒の状況により、教員からの働きかけを工夫する必要がある。

(2 学年)

模試・検定の受験に関して、こちらからの働きかけが足りなかったもので、3年次では進路実現に向けてさらに働きかけたい。

(3 学年)

生徒のアンケートより、名張高校の進路指導には、概ね満足したという結果が得られた(85.7%)。ほぼ進路希望を実現して、卒業させることができるが、数名の未定の生徒にも、進路の方向付けをして卒業させたい。

(教育運営部)

授業改善に向けて、他校の授業公開や研修会等に参加しやすい環境づくり(時間割変更ができる)が必要である。

(進路指導部)

①「進路希望の実現」については、進学は100%とはいかなかったものの、89%が第1志望合格を果たした。また、就職については目標数値を達成している。

②「基礎学力の定着」では、基礎学力テストの回数を増やし、「産業社会と人間」や「総合的な学習の時間」等でこれらのテストの意味づけや重要性を説明してきた。しかしながら、基礎学力の定着、学習習慣の定着まではまだまだ課題があるものと思われる。他校事例等も参考にしながら、改善策を検討したい。

■ 豊かな心の育成

(1 学年)

学年全体としては、落ち着いて学校生活をおくっている。多くの生徒は健康管理に気をつけ、皆出席を続けてきた。しかし一部の生徒が、一度欠席・遅刻等をしてしまうと安易に遅刻をしてしまう傾向がみられる。また1月頃から欠席が増加している生徒も数名おり、担任のきめ細かい指導によって改善を促しているところである。生活習慣を整えるための支援をする必要がある。

(2 学年)

欠席・遅刻・早退に関しては、進路を視野に入れ、皆出席を目標に掲げている生徒がいる一方で、学校に気持ちが向かず安易に欠席などをしてしまう生徒がいる。次年度4月以降進路を決める大事な時期になるので、学年集会やSHR、総合学習の時間を有効活用し、さらに働きかけ意識付けを行っていききたい。

(人権教育推進部)

人権学習LHR後に実施する人権個別面談を行うことで、部落問題をはじめとした人権諸課題について、生徒一人ひとりの認識や生活課題を担当・副担任で情報共有していく。また、教職員自らも生徒とともに「気づき・学び・変容すること」を図る。

(保健部)

各種検診については、概ね全員が受診できているものの、その後の指導がまだ浅いのが現状である。特に歯科に関しては歯垢の除去やブラッシング方法について個別指導も視野に入れて計画していききたい。

(生徒支援部)

登校遅刻がH27年度1526人→H28年度957人(H28年度入学生1クラス贈)→H29年度557人と3年連続減少傾向ではあるが、「時間を守る」「授業を大切にす」という大切な部分でまだできていない。そのため今年度から授業遅刻を取り入れた。その結果、のべ人数641と全校生徒の628人よりも多い数となった。自覚を持たせることや啓発など細かく働きかけていききたい。

■ 職員充実度の向上（マネジメント委員会）

仕事の効率を上げて「働きやすさ」と「働きがい」のある名張高校になる。①「教材研究」空き時間は教材研究に集中する。②「連絡調整」早め早めに連絡調整し人の仕事を奪わない、会議時間を短縮する。③「無駄な仕事はやめる」放課後は補習や部活動へ。生徒が待っている。各部各学年、各委員会と協力協調し組織風土作りに取り組む。

■ 情報提供による信頼の構築（総務部）

高校生活入門講座をはじめ、ウェブ・ページによる情報発信を定期的に行う。名張高校の生徒の様子やカリキュラム、進路状況等がわかりやすく伝わる学校案内の冊子や中学2年生向け広報誌を充実させ、名張高校の魅力をさらに伝えられるように内容等を今後一層充実させてゆく。

■ 教職員の人権感覚の向上（人権教育推進部）

引き続き、校内研修の充実に努めるとともに教職員が100%参加できる環境づくり（日程、興味関心等）の整備。また、地域との関わりを一人でも多く参加できる協力体制の充実に努める。

5 学校関係者評価

明らかになった
改善課題と次へ
の取組方向

○ 総合学科の教育課程経営とキャリア教育

担任団・学校運営部・進路指導部が中心となり、多様な生徒の興味・関心・進路に対応した総合学科の教育課程経営が行われている。創立100周年を超える名張高等学校の伝統が「人の生は続く」という基本的な安心感を生徒に与えているのは大きな強みであり、それを活かし、細やかなキャリア教育の展開が図られている。生徒が教職員を信頼していることも態度から感じられる。極めて高く評価したい。引き続き、生徒の興味、関心、能力を十分に引出し、自己実現、進路実現がなるよう、教育に取り組まれない。また、生徒・家庭・社会から何が求められているか、その認識を不断に努め、経営改善を継続していただきたい。信頼を維持するだけでもたいへんなことだが、地域からの要望にもあった「信頼できる学校から、学ばせたい学校への進化」が課題となろう。

○ 確かな学力の向上に向けて、学ぶことの意義を認識させる教育

進路の違いに関わらず必要な基礎学力充実のための取組み、SHR学習、読書習慣の確立につながるビブリオバトルや図書館利用、英語の音読など、言葉への取り組みが充実している。極めて高く評価できる。しかしながら、家庭学習の時間をしっかり確保できない生徒が散見される。教科の勉強が生活するための思考力とつながることに気づかせ、学びへの意欲をさらに喚起する必要がある。キャリア教育のさらなる充実をはかり、生徒に学びへの目的意識を持たせることも有効であろう。日常的には、教員への信頼感、親近感を勉強への集中力に導き、生徒を鍛えてほしい。

○ 豊かな心と健康な体の育成のための多彩な教育活動

基本的な生活習慣の確立のため、生徒への遅刻指導や健康管理に力が注がれ、それが生徒の清潔感を生んでいる。これはひとり生活指導に留まらず、生徒一人一人の生きる力の涵養を図っている姿でもある。極めて高く評価できる。また、学校行事や人権学習等も充実しており、生徒の満足度も高い。このような取り組みが、生徒のよりよい未来を拓くものであることを、生徒自身に認識させていく必要がある。

	<p>○ 信頼される学校づくりと広報活動</p> <p>名張高校の優れた教育活動を、地域・社会にアピールすべく、広報活動の充実が図られた。家庭や地域、関係機関との連携のために、今後も継続した情報発信の充実が望まれる。特に、情報発信元として、ウェブ・ページの重要性を指摘しておきたい。読み手が名張高校の教育の良さを感じ取れるような情報発信内容と、その方法に工夫がなされると良い。</p>
--	--

6 次年度に向けた改善策

<p>教育活動についての改善策</p>	<p>○ 授業・学習指導</p> <p>学校全体に授業に集中できる雰囲気がある。しかし、家庭学習の習慣がなく、理解度が深まらない生徒も多い。能動的に学ぶ生徒を育てるために「授業改善」に継続的に取り組む必要がある。</p> <p>○ 学級指導</p> <p>学年団の高いチームワークによっていじめのない学級がつくられ、生徒は安心して登校している。しかし、不登校傾向のある生徒、心身に課題のある生徒等、生徒対応に苦慮する場面も多い。「カウンセリング手法」の習得や「保護者対応」のノウハウを学ぶ機会が必要である。</p> <p>○ 生徒・安全・健康指導</p> <p>組織的な指導力の高まりの結果、命や人権を大切にする指導が適切に行われていると感じる生徒が90%を超えている。しかし、軽率な発言や周囲への配慮を欠いた行動が依然としてある。生徒の心に響く「講演会」を継続して行う必要がある。</p> <p>○ 進路指導</p> <p>生徒の進路実現に向け組織的な取組みが構築されつつある。情報提供、補習、学習合宿、進路講演会など時期を逃さず行っている。しかし、生徒の本気に火がついていない。本質的かつ先進的な取組みを行っている学校、教員から学ぶことで名張高校の総合学科をブラッシュアップしていきたいを図りたい。</p>
<p>学校運営についての改善策</p>	<p>○ 教育活動全般</p> <p>入学満足度調査の結果、肯定的な回答が1年次88%、2年次68%、3年次80%となった。組織的な取組みの継続と教員一人ひとりの頑張りが数値として現われた。一方で、2年次の満足度の落ち込みが続いている。この原因がどこにあるのか「教育課程及び授業内容」「学級指導」「進路指導」「学校行事」を中心に課題を明確化し、優先順位を決めて改善策を実行する。</p>